

宇宙開発特集号の発刊にあたって

取締役常務執行役員

航空・宇宙・防衛事業領域長 識 名 朝 春

人類が遠距離の移動や大量の荷物を運ぶ手段として最初に創ったのは、船でしょうか。紀元前 4 000 年ごろにはナイル川流域やチグリス・ユーフラテス川流域で帆走船が使われていたとされています。かつて航海に挑む人たちは、茫洋たる大海を前にどんな想いを抱いたのでしょうか。7 世紀に始まった遣隋使や遣唐使たち、大航海時代に海に乗り出して行った人々、あるいは今から僅か 146 年前の岩倉使節団、もちろんその使命に対する熱い想いに燃えつつも、無事に戻って来られないかもしれないとの覚悟の出航だったのではないかと思います。それを見送る人々の心配や悲しみは察して余りありません。しかし、技術の進歩により、今や海上輸送は世界規模での物資の移動で世界経済を支え、クルーズ船での旅は安心して身近なものになりました。IHI グループの歴史はその船を造ることから始まりました。



次に、鉄道、それから飛行機が生まれました。ライト兄弟のフライヤー号の初飛行からは今年で僅か 114 年ですが、今では飛行機による移動は、価格も下がり大変身近なものとなりました。私が小学生だった昭和 40 年代の初め、親戚のお兄さんが福岡から東京に就職するとき、当時は夜行列車で一日かけての移動で、しかも運賃も一般の人々にとっては高額だったので度々の帰省は困難であるため、めでたい門出ではあるものの、本人も両親も大変切ない想いをしたそうです。航空機での移動が一般化した今は、未知なる世界に挑戦する人々の後顧の憂いも、見送る人の寂しさも随分とやわらげられ、旅立ちを心から祝福できるようになっているのではないのでしょうか。これも技術の進歩がもたらしたもので、その恩恵は発展途上国の多くの国にも広がりつつあります。IHI グループは航空機用エンジンの研究・開発・生産・整備によって、技術の進歩に貢献し、人々の旅立ちを見守っています。

そして宇宙への飛翔です。国家による開発が主流だった宇宙開発や宇宙利用も、最近では民間による挑戦が数多く出てきました。近い将来、宇宙という場所が一般の人にも身近になることを想像させます。宇宙空間や月、あるいはその先も、いずれ人々の活動の場となっていくのだと思います。そのときには、宇宙に向かう人は殊更「宇宙飛行士」とは呼ばれなくなるのでしょうか。宇宙に向かう人たちが、探検であれ、事業であれ、観光であれ、思い切って挑戦でき、そしてそれを応援し見送る人たちが安心して大いなる旅立ちを祝福できる日が、技術の進歩とともにやってくることでしょう。IHI グループでも多くの技術者が宇宙開発や宇宙利用に携わり、この未来の実現を目指しています。

宇宙開発特集号では、IHI グループにおける宇宙開発や宇宙利用に関する技術活動の一端を紹介しています。IHI グループの宇宙事業は、ロケットやその推進系を主としてきましたが、今では宇宙からの観測あるいはそのデータを利活用した新たなソリューション事業の展開も行っています。IHI グループが拓く宇宙の可能性にご期待ください。